第 3 回 清瀬市長期総合計画策定審議会（案）

1 開催日時

令和 7 年 2 月 1 8 日（火） 1 8 時 0 0 分から 2 0 時 0 0 分まで

2 場所

清瀬市役所 3 階 庁議室

3 会議内容

(1) 開会

(2) 第 2 回会議の会議録確定

委員の総意により、資料 1 のとおり確定した。

(3) 基本理念について

事務局から資料 2 の基本理念案及び資料 3 の職員アンケートを提示し、以下のとおり各委員から意見があり、質問があった場合は事務局が回答した。

- ア 職員アンケートの結果を見て、職員の「現行のままが良い」という意見を見ると、今の理念が身についてきたところなのかなと思う。変える必要があるのかという意見もあると思うが、資料 3 については参考にさせていただきたいということだと思う。審議会で新たな基本理念案を作ることであれば、その方が良いと思う。奇抜な案も出たが、清瀬市は人が見向きもしてくれないのではないかという心配もあった。東京の外れにある市というイメージもある中、清瀬に住み続けたいと思ってもらえるような基本理念にできればと思う。資料 3 についてはあくまで参考資料として考えてほしい。
- イ 清瀬市は、東京都の保全緑地と市内の緑地を合わせると市の面積の 20% が緑地である。16 年前から、農家の方々と協力して子どもたちの学校の登下校の見守りをしようということで、農作業時、「子ども SOS 運動」の実施を続けている。その結果、市内の不審者の事例がほとんどなくなった。また、以前から緑地が多いため清瀬は空気がきれい。農業関係者の間では、「風が香る 緑のまち 明るい清瀬」をスローガンに活動している。「みどり、風、明るいまち」という言葉はなるべく理念の中に、これらの言葉を入れたいと考えている。
- ウ 緑は清瀬市を代表するイメージだと思う。先ほど緑地が市内面積の 20% であるという話があった。以前は 30% 以上だった。つまり基本計画がありながら 10% 減少している。緑を守るとなると、緑だけに市税を投入するような姿勢じゃないと守れない。緑は農地や山だが、清瀬市のもではなく、個人のものであり、時期がくると農業が続けられないという時代が来て緑は減少していく。基本計画で「緑を守る」というよほど緑に特化するような施策を入れないといけなくなる。もし緑を基本理念に入れるのであれば、緑に関する大きな施策を立てなければならない。

- エ 新たな基本理念案として「多様性・市民と築き上げる都市型自然環境の街 夢の空間へ清瀬」を挙げた。清瀬は大自然ではなくどちらかというと里山。自然が管理されていることが大事。安全が担保されている自然。公園など手入れされている自然。清瀬市は農地も含めて大自然というよりは管理されている自然が多いと思う。つまり人を介している。清瀬市や市民が管理しているということが大事。子どもや高齢者のために管理されている自然、安心安全な自然というのが清瀬の売り。基本理念案には、弱者も強者も様々な人がいるという意味で「多様性」という言葉を入れた。また、「夢の空間」というワードも、中央公園に来る電車の名前を入れることで、清瀬の公園も含めた自然を表している。
- オ 先ほどの緑地が20%というのは、農地が18パーセントで森林が2パーセントという内訳だったと思う。森林が2%しかないのであれば、「緑」より「自然」という言葉の方が良いのかなと思っている。10年後ではなく、20年先30年先を見据えたうえで、10年を考えた方が良いと思う。緑は減少し、都市化していく。10年経ったら更に10~20%農地が減少していくだろう。将来の目的を明確にしないとイケない。
- カ 緑地2%は、保全緑地として東京都が買い上げており、農業関係者が手入れもしているので、無くなることはない。農地は1年で2ヘクタール減少している。減少部分をいかに少なくして、市の力で緑地を残していくか。基本的には自然には手を入れない。人の手が入っていない自然を守る活動を継続したいと思っている。また、清瀬にはひまわりもあるが、保全緑地には「片栗」という花が咲いている。清瀬が誇れるものだと思うので是非見ていただきたい。これを含めても緑を基本理念に入れたい。
- キ 自然を守るには市の体力が必要。昔は、子どもが7歳になったときに木を利用してお祝いをする帯解き山という文化があり、それで収益を出していた。その木を育てるために新しい芽吹きをするには、枯れた木を切って、日光を当てて、植栽をしないとイケない。しかし、枯れた木を一本切るのに50万円ほどかかる。これは一例だが、清瀬の自然を守るためには市の体力がないとイケないと思う。緑というのはすごく大切な言葉ではあるが、清瀬市は多くが私有地。私有地を売却しないと相続性が払えない。清瀬市が体力をつけて、それを買えば緑はかなり残ると思う。緑は清瀬市に体力がないと守れない。また、先ほど意見があったように、「緑」ではなく「自然」を守るとした方が良いと思う。
- ク 今は基本理念について検討しているが、基本理念、将来像、基本目標、施策を考えていくという流れだと思う。現在自然が減少しているという事実を基本理念に反映させるのではなく、市民が「こういうまちにしていくんだ！」というイメージを膨らませたものを基本理念にするべきである。ぱっと思いついたものが理念で、そこで「みどり」という言葉が入るならば、施策で問題に対する対策を考えるべきだと思う。
- ケ 職員アンケートの中にあつた「基本理念は市の最上位計画であるのであれば、自治体間競争の中で清瀬市を選んでもらうための差別化が必要」という意見が心に

残っている。市の職員が中心ではなく、市民の意見を中心に基本理念に繋がれば良いと思っている方もいるのだなと思った。また、「能動的な攻めのものが良い」という意見もあり、今までのことも大事しながら新しいこともしていかなければならないという意思を感じた。私たち市民からそういう理念が出てきてほしいと思っている。高齢者、子どもたち、世代ごとに考える未来がそれぞれ反映されるべきだと思う。先を見越すような言葉が入っていると良いと思った。

コ 市役所の方たちが、どういうまちにしたいのかというのを教えてほしい。それをベースに考えた方が早いのではないか。行政のベースが無いといくら意見を言ってもまとまりがつかないのではないか。

会長 審議会は市から諮問を受けているので、審議会で考えて市に対して答申しなければならない。ただ、前回出た意見を整理した資料の提示があれば議論しやすかったように思う。今日は今ある資料の中で意見を出していただきたいと思う。事務局としては、今日また委員の皆様から意見をいただいて、次回基本理念案が提示される流れで良いか。

事務局 今回意見をいただいて、また事務局の方で取りまとめる予定だが、このままだと議論が前に進まないということも承知している。次は将来像と基本目標について議論していただく予定だが、10年後のあるべき姿やそれに対してどういう計画を立てていくかというような議論が進めば、事務局で案を絞った形で第4回会議にて提示したいと考えている。

会長 次第4の基本目標、将来像に進んでから基本理念に戻るという進め方で良いか。

委員 承認。

(4) 将来像及び基本目標について

事務局から資料4を提示し、以下のとおり各委員から意見があり、質問があった場合は事務局が回答した。

サ 清瀬市内の農地は、災害時の避難所として登録されている。畑は見通しが良いし、上からものから落ちてこない。畑の近くに防災井戸がある。畑には水と食材がある。10年以上前に市とJAで協定を結んでいる。清瀬市は全農地避難所として登録されている。新施策の中に「地域一体となった青少年の健全育成」とあるが、市内の中学校で農業体験を行っている。中学生が農家と繋がる。そして、災害が起こったときの避難場所を知ることができる。今後も中学校の職場体験を活かしていくということは今後も継続していく。

シ 横断プロジェクトとあるが、行政は大体横断。各部署が協力してやっている。人口減少が重要だと思う。清瀬は地盤が良いので安全なまち。人口減少の問題を踏まえて施策に優先順位を決めてやっていくべきなのではないかと思う。財政状況を考えて、右から考えていくというのも良いと思う。そういう見方もあると思う。

ス 右から左も良いと思う。でも予算を考えるのは職員が考えること。将来像と基本目標の中に、「まち」という言葉が使われているが現行もなのか。

事務局 現行も「～なまち」となっている。こういったまちになってほしい。こういうこ

とが求められているのではないかという視点で考えてほしい。「こういう視点でまちづくりをしてほしい」という意見ができれば、事務局で集約する

セ 「まち」という言葉について。「誰もが健幸な清瀬」としても良いかも。「働く人が輝く」まちのところに職員のことしか書いていない。市民のことが書いていない。「働く人が輝くまち」の中に、働く市民のことも入れてほしい。誰もが健幸なまち、について、高齢者支援に特化しすぎていると思う。「人を育むまち」では、子育て支援が最初に来ているが、国の考え方では、「0～29歳」の子どもと若者が主役という考え方。子育てだと、親がメイン。「活力を生み出すまち」と「働く人が輝くまち」は別の言葉で統合するか。

ソ 「誰もが健幸」なまち誰もがだとすると、高齢者だけでなくみんながだと思ふ。基本理念はたいてい、自然と人と未来のことが入っている。自然が安心安全に繋がるのではないか、将来像と基本理念がリンクできるような形になると良いのかなと思ふ。

タ 表で見ると、現行施策が今まで職員がやっていること、新施策は令和8年度から職員がやること、基本目標は5年後、将来像は10年度、基本理念は20年～30年後。将来像考えると基本理念が出てくると思ふ。

チ 将来像については、「誰もが健幸」「働く人が輝く」という表現に合わせて、「人を育む」を「人が育つ」にした方が良いと思ふ。また、「働く人が輝くまち」は、将来像の内容と基本目標の内容がミスマッチである。内容は職員に関することのみあるが、将来像は「働く人が」と主語が大きく、イメージしづらい。基本理念については、職員アンケートを踏まえ、全体の意見を繋げると「人と心と緑をすなぎ 未来のきよせをひらく」が良いと思ふ。

ツ 基本目標の「まちの魅力をつくる・伝える」は大人が対象なのかと思ふが、学校で子どもたちに魅力を教えるという教育をやった方が良いと思ふ。小さい頃から魅力を教えていけば定住を図れると思ふので、子どもにも伝わるような表現にするのが良いと思ふ。

テ 審議会の役割として、毎回の会議で決定ではなく、言いつばなしで良いのであれば意見が言いやすい。その後議論を進めていく中で、事務局が整理をして決めていくことができると思ふ。また、基本理念は長い軸で将来こうあるといいねとイメージを置いて、課題は施策のところを押さえていけば良いと思ふ。一般市民はゼロから意見を出すというのは難しいので、先ほど意見があったように、有識者は右からのイメージ、市民は左からのイメージ、でそれぞれアプローチすれば良いのではないか。

事務局 最終的に答申は必要。ただ、プロセスにおいては、毎回の会議で何かを決めるということはできない場面もあると思ふので、言いつばなしで良い。事務局で取りまとめる。それぞれの得意不得意があると思ふので、右から、左からそれぞれアプローチをしていただいて、両方合わさったところで決定していければ良いので皆さんの検討しやすいようにやっていただきたい。

ト 農地が防災に役立つときいて清瀬すごいと思つた。学校教育と農業の繋がりは重

要。しかし、施策体系案には無い。新施策や横断プロジェクトにも入っていない。今日出た意見が今後新施策に入っていくと良いと思う。例えば、新施策に番号を振って、1番の施策は一つの将来像だけではなく、横断的に、将来像のここここに入れると複数の将来像に関わる新施策であることがわかると思う。基本理念は「自然」という言葉もよいが、自然全てを含めて「みどり」で良いのではないかと思った。ひまわりや片栗、農地や保全緑地などの自然が清瀬の良いところだと思う。現行の基本理念も良いが、行動目標的に「何をする」というのが分かると良いと思う。仕事柄子どもが分かりやすい言葉で表現してきた。農地が減っていく中でそれを守りたいという先の未来、子どもにとって緑を守るってどういうことだろう、って考えると、また違った意味で「守る」ということを考えてくれるかもしれない。行動が表れているような基本理念になると良いと思う。

ナ 人口減少、少子高齢化、が進行しているが、子どもたちのために肩車社会を食い止めなきゃいけないということが一番重要だと思う。子どもたちも小さいときからなんとなく基本理念がイメージできるように、隣にイラストもあるといいなと思う。5歳くらいでもわかるようなものだとよい。理想のイメージとして、清瀬市の緑についての話が多く出ていた中で、花をイメージしている。花の花びらが子どもたちのイメージ、それを支える太い茎が親、根っこが縁の下の力持ちとして支えてくれる清瀬市、それだけでは花は枯れてしまうので、水や太陽などが近所や高齢者などの市民、というようなイメージでそれぞれの世代の人が役割をもって水をあげたり太陽の光を注いだり、子どもたちが枯れずに生き生きしているという未来像のようなものが、子どもたちもわかりやすい文面で、ひらがなにするなどわかりやすいものが良いと思った。

ニ 基本目標や新施策を見ていて、どこの地域に行ってもこんな感じのものになるのだろうなと思う。自然や緑を守る以前に、住んでいる私たちを守ってほしい。人として見てほしいと思った。第1回をリモートで参加した際、市長より税金を確保していかなければならないという話があったが、私たちは税金を払ってくれる人としてではなく今がんばっている人として、私たちを守ってほしい。私たちが守られることでその次に自然や緑が守られて、子どもが守られて、高齢者を守りたいという気持ちにもなると思うので、まず私たちが安心して暮らせるまちになってほしいなと思う。そこから清瀬市がおすすりめできる場所になっていけば良い。今は、清瀬市を他市の人に紹介するとき、「所沢の隣だよ」「秋津の隣だよ」と説明している。「清瀬市だよ」と堂々と言えるまちになってくれるといいなと思う。人を守ってほしいと思う。

会長 そのような視点で見た時に、基本理念で一番近いものはどれか。

ヌ 2番が良いと思う。人と心の部分を守っていただけると住み続けたいと思える。

ネ 前回は「守る」ということについて述べたが、心を守らないと、人には優しくできないと考えると、基本理念の2番目を「人と心と自然を守り 次の時代の清瀬をひらく」にするのが良いのではないか。

ノ 「しあわせはここにある」というフレーズが良い。ただ、人それぞれ幸せは違う

から個人のためのしあわせにはどうすれば良いのか、人としてのつながりとまちとしてのつながり。個人が責任をもつまちづくりと、市が責任をもつまちづくり。

「活力を生み出すまち」の活力を出すには具体的に何ができるのだろうかという思いがある。現行施策、新施策を見て、10年20年前からあってまだできていないのかというものも見受けられる。本当に幸せを実感するために、具体的に何をやっていくべきなのか、もし完成されていない部分があるとしたら、見直す必要があると思った。

ハ みどり、自然という言葉は必ずいれていただきたい。清瀬の魅力を語るうえで、大事なことば。自然や綺麗な空気を求めて清瀬に来られる方多い。気に入って定住される方もいるので「みどり」や「自然」を入れてほしい。

ヒ 子ども計画の中で、子どもたちのアンケートをとっている。まとまったアンケートを参考にしてほしい。子どもたちの意見で「野菜がおいしい、特ににんじん」等の意見がある。これだけ子どもが生活の中で農業や畑、農産物を目にしてるのは清瀬ならではのことだと思う。「みどり」と「自然」を支持する意見が多いことは納得できる。

フ これだけ委員が清瀬に対する期待や思いをもってやっているが、できあがったものを市民にどのように伝えるのか。できあがったときにこの思いを市民に本当に伝わるようにしてほしい。

事務局 市報、HPはもちろんのこと、本市でも出前講座もやっているのので、総合計画について知りたい団体に出向いてご説明することもできる。策定前にも市民の方への説明会、パブコメも実施する予定である。策定前もできるだけ多くの市民の声を反映し、策定後もできるだけ広く説明したいと思っている。

ヘ みどりや自然を入れてほしいという意見が多くあったが、みどりや自然で何が違うのかというと、「自然」は自然災害も含めて考えている。なので「自然」という言葉を使うのを躊躇するところもある。基本目標や施策は市の部や課が主体になっており、市民がされる側になっているのでは。もう少し、市民や市内の団体との協働の部分が枠にはいってほしい。施策も市民が主体になるような文章に変えられないのか。工夫できれば工夫してほしい。

ホ 皆さんの意見を聴いて、「まちの魅力をつくる伝える」が重要だと思った。施策にある「まちの魅力をつくる伝える」を将来像や基本理念のところに組み込んだら良いのではないかと思う。

最後に、会長から追加の意見等あれば後日メールやFAXにて「ご意見シート」を提出するよう説明があった。

(5) その他

事務局から、追加で第4階の会議を3月後半に開催予定である旨を伝え、閉会となった。